
同窓トリップ!

長門松希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

同窓トリップ！

【コード】

N2393BA

【作者名】

長門松希

【あらすじ】

同窓会からのトリップ。トリップまでが長くトリップ後が短いです。

(前書き)

とりあえず書いてみた。

設定が細かく決まれば連載してみようかな、と考え中。

「次の曲誰？」

「はい！ はいはい、俺でーす！」

「おー、奇跡の歌姫ならぬ歌王子（笑）の登場ー！」

「んだとコラ。俺の歌声なめてんのか。マイク貸せ！」

「OK、慌てんな相沢。俺と佐武が合いの手入れてやる」

「えっ、なんで私も合いの手要員！？ 無理だつて！」

「大丈夫大丈夫」

大きい和室での高校クラス同窓会。今回の同窓会は、特別に仲が良かった年の、メンバーの内の1クラス（担任含め31人）でやっていた。生徒は皆、現在は24歳だった。仕事やらが忙しくて、最初からは来れそうにない者は後から来て、特に用事が無かった者は色々用意をしたりして同窓会を豪華にした。それでも6人ほどは来れなかったらしいが、十分お祭り状態だった。

そして今は、女将さんが持ってきたカラオケの機械を使っの力ラオケ大会が開催されている。

「あーああアアア！ キーが出ないイイイ！」

「かーらーの！」 タンタンタン！

「うううう〜雨の降る夜はあ〜暗い気持ちになって当然ですよね」

「そうですね!」 「そうですね!」

「……アンタら練習してきただろ」

完璧な合いの手に疑いの目を向ける、天然パーマの茶髪の男の方に、相沢と呼ばれた男と、タンバリンを持った男と、佐武と呼ばれた女が体を向け、近づいた。そして、すぐそばで歌い出した。

「はい、そうかもしれない」

「そーかもしれない!」

「違うかもしれない」

「違うかもしれない!」

「あ、はいはいはい」 タンタンタンタン

「……」

「ブッ」

「っ、ぷくく……プスー」

茶髪の男は沈黙した。その後、茶髪の男の横にいた女二人組が吹き出した。

席は変わり、担任とその近くの元生徒達の会話。

「大谷先生つてさあ、やっぱプライベートでは弄られる方だよな」

「何でだろ？　なんか、弄られキャラって感じなんだよな」

「弄られキャラって……俺だって弄られたい訳じゃないけどさ……小学生時代から弄られ役なんだよ。もうやだなあ」

「うわ、先生……真の弄られ役じゃん」

「まるで眞部みたいだな」

「……市野オ、呼んだ？」

「え……呼んでない呼んでない」

「ブフツ、ははっ、ちょ（笑）」

担任の弄られ人生の話題で盛り上がっていた。

次に4人グループで固まっている男子集団。三人酔っ払っていて、その内二人は寝ている。残りの一人は飲んでいない一人と、全然呂律が回っていないまま会話していた。

「んっでよ、おれ言っつてやっはんよ。間違っつとる！　ってえ」

「それはすごいな」

「でそー？　先輩相手に言える俺かっけー」

「呂律回ってないからかつこわるいけどな」

「それよ〜」

「あー、うん、で？ 何？」

男はさらりとツツコミを入れたりするが、酔っ払った男は全てかわしていた。それにイライラしながらも、男は聞きに回っていた。

そして、酔っ払って寝た二人の横に、長めのキノコヘアの女と、ポニーテールの女が寝転がっていた。その二人は手遊びをしていた。

「いつせえのーせー！」

「いつせえのーせー！」

「あ」

「っし。ちーさん、五百円プリーズ」

「はいはい……ほら」

「……あんたら手遊びで賭けやるって……」

「気にしちゃ負けですよ、五十鈴さんや」

「えー……まあ、そうなのか？ うーん……」

二人の様子を見て、セミロングの黒髪の女が突っ込むと、後ろで三つ編みをした女が、力の抜けた声で促した。セミロングの女は、

微妙な顔をしながら酒を煽った。

そして、時間がどんどん過ぎて行き、深夜12時となった。

ほとんどの者が酔い潰れて眠っている。飲んでいなかった数人は、そろそろ皆を起こすかと動き始めた……そんな時、突然障子の外が光った。白く鋭い光が障子をぶち抜いて部屋を照らす。

あまりの光の鋭さに、飲んでいなかった数人は目をキツく閉じた。

次にその数人が目を開いた時、目の前に広がるのは森とそこら中に寝転がる酔っ払い達だった。

(え、どこ?)

数人の心の中が一致した瞬間であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2393ba/>

同窓トリップ！

2012年1月6日00時46分発行